

看護学科 3つのポリシー

ディプロマ・ポリシー（卒業の認定に関する方針）

本学科のカリキュラムにおいて、卒業に必要な所定の単位を修得した者は、次に掲げる能力や資質を身につけていると判断し、専門士（医療専門課程）の称号が授与されます。

1. 対象を身体的・精神的・文化的に統合された人間として理解する能力。
2. 看護師としての信頼関係を構築するコミュニケーション能力。
3. 看護倫理に基づき看護を実践する基礎的能力。
4. 科学的根拠に基づいた看護を実践するために必要な臨床判断能力。
5. 保健・医療・福祉チームの一員として、多職種と連携・協働するための基礎的能力。
6. 専門職を目指すものとして、内省する能力を身に付け、協調性を持って行動する能力。

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成に関する方針）

本学科は、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識、技能などを修得させるために、「基礎分野」・「専門基礎分野」・「専門分野Ⅰ」・「専門分野Ⅱ」・「統合分野」の科目を体系的に編成し、講義・演習・実習等を適切に組み合わせた授業を開講します。

評価に関しては、それぞれの教育内容・方法（講義・実習等）に応じた評価方法が選択され、各科目のシラバスに明記されます。

1. 基礎分野 13単位（315時間）

教育理念を受けて、科学的思考の基盤や看護の対象である人間を広い視野から総合的に理解し、主体的な判断と行動を促し、国際化、情報化に対応をできる能力の育成に向けた科目を設けます。

「論理学」・「情報科学」・「生物学」・「教育学」・「心理学」・「倫理学」・「社会学」・「英語Ⅰ～Ⅱ」・「人間関係論Ⅰ～Ⅲ」

2. 専門基礎分野 22 単位 (510 時間)

「専門分野Ⅰ」・「専門分野Ⅱ」・「統合分野」の基礎として位置づけられています。
健康・健康障がいに関する観察力や判断力に必要な基礎的知識、及び生活者の健康を守り社会生活を支援するために必要な知識を学ぶものとしています。また、社会医療システム・法的な知識・看護者としての責任・倫理観などを養い、変化する時代のニーズに適応できるような内容となっています。

「人体の構造と機能Ⅰ～Ⅳ」・「生化学」・「栄養学」・「薬理学」・「疾病治療論Ⅰ～Ⅳ」・
「微生物学」・「公衆衛生学」・「社会福祉学」・「関係法規」

3 - Ⅰ. 専門分野Ⅰ 10 単位 (315 時間)

「基礎分野」・「専門基礎分野」で学習した内容と関連付けながら、「専門分野Ⅱ」や「統合分野」の土台となる看護の概念・役割、看護実践の基盤となる看護技術・問題解決過程などを修得します。

「基礎看護方法論」では対象の生活を整えるために基本的看護技術を修得し、「臨床看護」では対象の状態を理解することを学びます。

基礎看護学はすべての看護実践の基盤となるため、コミュニケーション技術・フィジカルアセスメントを強化しながら演習内容に重点を置いています。

「基礎看護学概論」・「基礎看護学方法論Ⅰ～Ⅳ」・「臨床看護総論」・「看護研究」

3 - Ⅱ. 基礎看護学実習 3 単位 (135 時間)

学んだ理論や方法を臨床場面において体験し、看護実践に必要な知識・技術・態度を統合する実習です。

日常生活において自立が困難な人々がどのように支えられて生活しているか考えながら、患者の置かれている立場を受け止め、看護の実際を体験しながら看護の場と対象を理解し、看護援助について考えを深め、看護のプロセスをしっかりと学びます。

「基礎看護学実習 A」・「基礎看護学実習 B」

4 - Ⅰ. 専門分野Ⅱ 22 単位 (615 時間)

各看護学では「基礎分野」・「専門基礎分野」・「専門分野Ⅰ」で学習した内容と関連付けながら、看護の目的・対象・健康段階に合わせた看護の方法を学びます。

「成人看護学」…成人期の特徴を学ぶとともに様々な健康段階にある対象のニーズを把握し、科学的な根拠に基づく判断と支援を学びます。

「老年看護学」…老年期の特徴・健康障がいをもつ高齢者の生活機能の視点から包括的にアセスメントし、看護の必要性和援助技術について学びます。

「小児看護学」…子どもとその家族を対象に適切な看護を行うための基礎的知識と小児看護技術を学びます。

「母性看護学」…女性のライフステージに応じた妊娠・分娩・産褥期における母性及び新生児の特徴の看護について学びます。

「精神看護学」…精神の健康問題と精神保健の在り方、精神疾患、精神症状における看護について学びます。

4 - II. 各論（臨地）実習 16 単位（720 時間）

知識と技術の統合の場であり、それぞれの健康段階・発達段階にある人がその人らしい生活を送れるように援助をすることを学びます。

「成人看護学実習Ⅰ～Ⅲ」・「老年看護学実習Ⅰ～Ⅱ」・「小児看護学実習」・「母性看護学実習」・「精神看護学実習」

5 - I. 統合分野 8 単位（210 時間）

急速な高齢化の進展や医療技術の進歩など看護をめぐる環境が変化している現状から、看護職はより患者の視点に立った質の高いケアの提供が求められています。

「在宅看護論」では在宅終末期看護、看取りの看護などが加わり、「臨床看護実践論」では、看護業務・メンバーシップ・リーダーシップ・リスクマネジメント・看護マネジメント・医療安全・看護管理・感染看護・災害看護・国際看護などが主な内容となります。

教育と臨床の場の乖離を少なくし、臨床看護実践能力の向上を目指します。

「在宅看護論（概論、方法論Ⅰ～Ⅲ）」・「臨床看護実践論」・「看護の統合Ⅰ～Ⅲ」

5 - II. 臨地実習 4 単位（180 時間）

「在宅看護実習」では、訪問看護ステーションや地域包括支援センターなど多様な場での実習を行います。「看護の統合実習」では看護チームの一員として、優先順位や時間管路の在り方などを学びます。

「在宅看護論実習」・「看護の統合実習」

アドミッション・ポリシー（求める人物像）

看護学科では次のような人を求めています。

1. 心身ともに健康であり、看護師になりたいという強い意志を持っている人。
2. 学習意欲があり、自己の向上に努力できる人。
3. 人間の生活に興味関心を持ち、他者を尊重したコミュニケーションが取れる人。